

日本不妊看護学会ニュースレター No.4

Japanese Society of Infertility Nursing (J.S.I.N)

日本不妊看護学会第2回学術集会開催されました

第2回学術集会は、浜崎京子氏を学術集会長として、平成16年9月5日(日)に聖路加看護大学に於いて113名の参加者によって開催されました。会長講演では、浜崎京子氏より「不妊とカップルの性を考える」と題して講演をしていただきました。不妊カウンセリングの第一人者である浜崎氏の実践例を挙げての講演はとても興味深く、不妊カップルをサポートする看護職者の関わり方について考えさせられる点が多々あり、大変参考になりました。一般口演では9題の実践報告・研究が発表され、10分間の質疑応答時間は活発な質問・意見等があり、参加者の関心の高さをあらためて痛感しました。



シンポジウム「性に揺れるカップルの傍らに居ること」では、福井トシ子氏(杏林大学医学部付属病院)清水きよみ氏(東京医科歯科大学)らの司会により約2時間30分に及ぶ活発な討論を行いました。川野雅資氏(三重県立看護大学)は、「不妊カップルのメンタルヘルス」と題して、事例から不妊カップルのメンタルヘルスを考ながら、看護カウンセリングと不妊カウンセリングの類似と相違について話されました。



目次

- * 第2回日本不妊看護学会学術集会報告…………… 1
- * 第2回学術集会に参加して…………… 2
- * 平成16年度第1回実践不妊看護セミナー報告…………… 3
- * 特集…………… 4
- 「不妊看護」を学ぶ、深める、極めるために有益な文献(2)
- * 生殖ジャーナルクラブに参加して…………… 6
- * 健やか親子推進協議会への参加団体です…………… 7
- * 平成17年度学会のお知らせ…………… 8

久慈直昭氏(慶應義塾大学医学部産婦人科学教室)は、「人工授精～精子提供の実態」と題して、AID(非配偶者間人工授精)の実際、親の告知に対する考え方、告知を受けた子どもがAIDをどのように受け止めるか等について話されました。森明子氏(聖路加看護大学)は、「不妊と『性』の問題とカップルへの支援」と題して、『性』の問題は、不妊当事者が検査や治療のスタート時点でまず直面することでありながら、医療者へ話されることがない現状より、『性』への支援について話されました。

シンポジウムは、生殖・性に揺れるカップルに医療者としてどのように寄り添うことができるのか、あらためて考えさせられる機会となりました。

学術集会への参加を通じて、さらなる実践報告や研究などが期待されると感じました。



日本不妊看護学会 学術集会に参加して

高橋レディースクリニック 白田 浩美

2004年9月5日、聖路加看護大学にて行われた日本不妊看護学会に初めて参加しました。小雨降る中、遠方からの人達も大勢集まり、質問が飛び交う熱気あふれる会場となっていました。

日頃、不妊看護の重要性を感じながらも外来業務に追われ一日が過ぎていくことが多いため、この学術集会ではあらためて気づきと、反省、学びを得ることができました。

浜崎京子氏の「不妊とカップルの性を考える」では「心因性勃起障害の8%は不妊外来に通院した結果であるという報告もされています」というお話を聞き、思いあたる事がありました。不妊治療の

6大検査であるヒューナーテストに夫が反対し交渉がもてず泣きながら電話をかけてきた患者さんや、医師に指示された日に交渉できず不安を訴える場面に遭遇するからです。クリニックに電話する前に夫婦間でどのような話し合いがされているか心配になる時も多々あります。

治療の結果子供をもつことができても、できなくても不妊治療によっておこる「セックスレス」は回避しなくてはなりません。そのため医療者側がどのような努力をしていけばよいのか今後の課題であると感じました。



平成16年度 第1回実践不妊看護セミナー

日本不妊看護学会&聖路加看護大学21世紀COEプログラム共催

【日 時】平成16年9月4日(土)

【会 場】聖路加看護大学1号館 302講義室

【プログラム】

- | | | |
|--------------------------|----|-------------------------------------------|
| 1 不妊の診断と治療:その開始と終結 | 講師 | 本山光博(中央クリニック) |
| 2 不妊治療の開始・終結時の看護 | 講師 | 藤島由美子(神戸市立中央市民病院)
小池弘子(西垣ARTクリニック) |
| 3 不妊治療の開始と終結:それぞれの立場から | 司会 | 福田貴美子(蔵本ウイメンズクリニック)
柴田文子(日本看護協会神戸センター) |
| 当事者として | 演者 | 松本亜樹子(現在・過去・未来不妊体験者を支援する会) |
| エンブリオロジスト・IVFコーディネーターとして | 演者 | 園原めぐみ(浅田レディスクリニック) |
| 心理カウンセラーとして | 演者 | 矢野ゆき(カウンセリングルーム・ぐり) |

実践不妊看護セミナー「不妊治療の開始と終結」に参加して

遠藤産婦人科医院 長谷川 陽子

不妊なのではないかと悩み不安に思いながら受診される方、また不妊検査・治療を希望されて受診される患者さんなどと日々関わり、思い悩み苦悩する複雑な思いに触れながら精神的に支えることの重要性を実感しています。

不妊検査・治療は、夫婦二人が十分に話し合い意思決定をし、協力して臨むことが大切ですが、そのためには具体的な確かな情報の提供と十分相談し合う環境を整えることが必要なことを、セミナーの講師の先生方から改めて学ぶことができました。

具体的な情報の提供とは一般的なことだけではなく、その患者さん(不妊カップル)において伝えられることは何かという個別的な情報を伝えること、また数値などで具体的に示しよりイメージすることができるよう努めることの大切さを本山先生に教えて頂きました。

松本先生には、不妊治療の開始・継続・終結における不妊当事者の苦悩、壁となって立ちのぼるものなど、セルフサポートグループでの活動からお話頂き、総括した患者さんの傷ついた心を感じる機会を与えて頂きました。

また藤島先生、小池先生には看護師として、園原先生にはエンブリオロジスト・IVFコーディネーターとして専門性を生かした情報の提供、患者さんの生活・社会背景にも目を向けた身体的・精神的・社会的苦痛や困難などの思いの受容、そして患者さんの大変な努力を認め意思決定できるように相談・サポートすることの重要性を学びました。

さらに矢野先生には、否認・孤立・悲嘆・抑うつなどの不妊感情の心理的特徴を、具体的に示しながら実演を交えてお話し頂き、不妊の喪失は大きく外からは見えにくいという特性があることを教えて頂きました。

私はこのセミナーを通して講師の先生方から学んだことを大切に、不妊治療の開始・終結、どの時期においても各専門職が患者さんを中心にチーム全体で支援サポートすることの重要性を深く考えながら、看護に努めたいと思います。

特集 「不妊看護」を学ぶ、深める、極めるために有益な文献(2)

【不妊や生殖技術をめぐって書かれた文献】

エリザベス・ブライアン、ロナルド・ヒギンズ(今泉洋子他訳)
：『不妊症新たな選択とジレンマ』：メディカ出版,2002,¥2,730(税込)

この本が日本で翻訳され出版された時に著者ご夫妻が英国から来日されました。不妊や当事者の立場を理解し、治療について全体をとらえるときに有益な本です。私ははじめて不妊やその治療について学ぶ人にはまずこの本を薦めています。

河合隼雄、大庭みな子共編:

『家族と性一現代日本文化論2』,岩波書店,1997,

赤城恵子:「不妊」から見た家族と性,¥2,730(税込)

赤城恵子:『生殖補助医療“技術”がもたらした現実と未来“④長期不妊,妊娠不成立時の心理カウンセリングから見えるもの』,助産婦雑誌,56(12):78-83,200¥1,200+税

医療機関の外で不妊カウンセリングにあたられている赤城さんによるものです。不妊の心理社会的側面がよくわかります。

フィンレイジの会:『新・レポート不妊一不妊治療の実態と生殖技術についての意識調査報告』,2000,¥1,500

東京女性財団:『女性の視点からみた先端生殖技術』,2000,絶版

「自助グループ」研究班による調査結果がまとめられている。不妊に悩む方々の意識、コメントが豊富で、医療者はケアのあり方について考えさせられます。

岡田光世:『アメリカの家族』,岩波新書671,2000,¥693(税込)

柘植あつみ:『文化としての生殖技術一不妊治療にたずさわる医師の語り』,松籟社,1999

文化的視点で不妊や先端治療をとらえている。学際的な見方の重要性が学べる。

【女性の生き方・子育てを考える文献】

Harriet,L.(高石恭子訳):『女性が母親になるとき—あなたの人生を子どもがどう変えるか』,誠信書房,2001,¥2,850

Lang,S.S.(海原純子訳):『チャイルド・フリー—子どもがいない女の生き方』,講談社,1993,¥2,039(税込)

Lind,H,Anton(久坂翠訳):『「産まない女」として生きるあなたへ』,kkベストセラーズ,2001,¥1,523(税込)

子どもがいないことを選んだ人生も、子どもができなかった人生もあること、また不妊の背景があってもなくても、母親になることは容易な道のりではないことを看護師は知っておくことが大切です。そのために役に立つ本です。

【ちょっと変わったところで...】

毛利秀雄:『精子の話』,岩波新書892,2004,¥777(税込)

精子の研究ひとすじに歩んだ著者が精子について、わかりやすく解説しています。精子ってどんな性質をもっているのか、どうやってできるのか、受精にはどんなしくみが働いているのか、もちろん顕微授精や男性の避妊まで先端知識も得られます。クローンがなぜ問題なのか、というようなこともこれほどわかりやすい説明に私は初めて出会いました。

【その他雑誌文献で参考になりそうな.....特集号です】

特集増えてきた高年妊産婦母児へのリスク予知と対応産婦人科の実際52巻10号2003

特集習慣流死産を捉えるペリネイタルケア22巻3号2003

特集女性診療科における薬物療法のタイミングいつ始めるか、いつ打ち切るか51巻11号2002

特集生殖補助医療の新たな展開MedicalScienceDigest28巻4号2002

特集生殖補助医療をどう考えるか産科と婦人科69巻6号2002

特集周産期を明るく過ごすためにその看護と支援周産期医学32巻10号2002

特集多胎妊娠予後の改善をあざして産科と婦人科69巻7号2002

特集不育症の新しいトレンド臨床にどう生かしていくか産婦人科治療82巻5号2001

生殖ジャーナルクラブに参加して

「女性側あるいは男性側のいずれの側においても、アルコール飲料はARTの予後に悪影響を与え、生産分娩率を低下させる」

EffectsofmaternalandpaternalalcoholconsumptiononthesuccessratesofinvitroFertilizatbn
andgameteintrafallopiantransfer

Klonoff-CohenH,Lam-KruglickP,GonzalezC.FertilSterl.2003Feb;79(2):330-9.

IVFやGiftの際の成功率に与えるアルコール摂取の影響に関して調査をした。221組のカップルが調査に参加、女性の飲酒は13%減少させ、妊娠不成立のリスクを2.86倍上昇させ、流産のリスクを2.21倍上昇させた。男性が飲酒した場合、生産分娩率に至らないリスクは2.28～8.3に上昇する。IVFやGIFTの1ヶ月以内や実施中に飲酒した男性において、流産率は2.70～38.04倍上昇する。

EBMに基づいた治療・ケアの重要性はみなさまの周知のとおりです。しかし臨床の現場では、目の前の患者様への対応やルーチン業務をこなすことだけで手一杯、今実践しているケアや、説明している医学的知識が本当に正しいのか確認する時間を捻出するのは困難です。そんな臨床看護師・助産師、あるいは研究者の強い見方になるのが、この生殖ジャーナルクラブの研修でした。1月10、11、12日国際医療技術研究所IMT Collegeの荒木重雄先生のお誘いで、生殖ジャーナルクラブの合宿に参加しました。

上記のような生殖医療に関連する主要な欧文文献1年分をすべて日本語で要約し、テーマごとに分類された内容を、2泊3日の丸2日間、朝起きて寝るまでの間、缶詰になって集中講義という形式で学びます。約5センチの資料をすべて網羅するので、かなりの集中力とパワーが要求されますが、修了した後は、明日からの活力になるような気持ちになりました。

ひとつの英語の文献を読むのにも時間がかかる私には本当に大きな学びでした。また要約資料はすべて手元に残るので、元の文献にあたることも容易です。会場には不妊治療に熱心な医師や検査技師などの参加もあり、多くの情報交換もでき、最新の知識を得るだけでなく、施設とのネットを作る場にもなると思いました。

IMT Collegeは研修会だけでなく、以下活動をしています。興味のある方は下記に連絡して詳細をお尋ね下さい。

IMT Collegeのジャーナルクラブに参加することによって、次のような収穫が期待されます。

- 1.最近1年間の欧文の生殖医学関係の論文の日本語の解説を聞くことができます。
- 2.最新の知見に関する専門家のコメントを聞くことができます。
- 3.疑問に思っている問題は直ちに関連論文にアクセスし検討することができます。
- 4.日々の生殖医療に関し国内の第一線の専門家と情報交換ができます。

2005年生殖医療ジャーナルクラブ予定

2005年1月8日出～10日(祝日)詳細未定

昨年参加者内訳

医師71% 査技師12% その他(会社員)17%

主催

日本生殖医療研究協会

事務局メディカルブレインサービス竹田隆博

〒104-0053東京都中央区晴海2-5-16-1019

Te1:03-3533-6531Fax:03-3533-6532

E-mail:info@medbrain.co.jp

日本不妊看護学会は、 「健やか親子21」の推進協議会への参加団体です！

岸 田 佐 智

皆さまは、すでにご存知とは思いますが、「健やか親子21」は、21世紀初頭における母了保健の国民運動計画(2001～2010年)として、国(厚生労働省・文部科学省等)が支援している取り組みです。母了保健の向上を目指し、大きく4つの課題、すなわち 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進、妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援、

小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備、子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減を掲げています。また、各課題にはさまざまな取り組みのテーマがあり、目標達成数値を設定しています。その目標を達成するために、専門団体や、民間団体、地方公共団体が「健やか親子21」推進協議会(平成13年4月20日に設立)に参加し、課題毎の各組織の目的に応じた活動を行っています。平成15年度に、本学会は76番目の組織として参加団体に承認されました。

本学会は、不妊看護の実践家・教育者・研究者の交流を促進し、学術的発展に寄与することにより、個人および家族の生涯にわたる健康と福祉に貢献することを目的としています。そのために、学術集会やワークショップ、勉強会の開催、学会誌の発行、さらに本年度からは、不妊看護に取り組んでおられる看護職のための相談活動も始めようと準備しております。

しかし、現在のところ「健やか親子21」の不妊に関する取り組みは、不妊専門相談センターの整備、不妊治療を受ける際に、患者が専門家によるカウンセリングが受けられる割合、不妊治療における生殖補助医療技術の適応に関するガイドライン(仮称)の作成、の3つの目標数値があげられているだけです。国の動きとしては不妊治療に対する費用負担の軽減について重点項目として挙げているようですが、不妊の問題を専門に考えようとしている団体は非常に少ない状況で、各課題のもとに設置されている幹事会においても不妊問題に時間をかけることは少ないようです。

参加団体に承認されると協議会の総会や幹事会へ参加することができ、不妊で悩んでいる方々のための意見をこうした組織の方々に広めることや国の政策にも反映できる可能性があります。まだまだ立ち上がったばかりの会ですが、課題2に関する幹事会へも積極的に参加し、こうした組織の方々との関係も深めながら、不妊看護の理解を広め、不妊問題への取り組みをしていこうと考えます。「健やか親子21」の推進協議会参加団体として、本学会が活動できることはまだまだあると思いますので、会員の皆様からのご意見もいただきたいと思っております。

「健やか親子21」に関する詳しい情報は、
<http://rhino.yamanashi-rned.ac.jp/sukoyaka/abstract.html>を見てください。

平成17年度学会のご案内

第3回 日本不妊看護学会学術集会

日時：平成17年9月上旬

会場：千葉大学 けやき会館

会長：森 恵美先生(千葉大学看護学部)

詳細は今後のニュースレターでお知らせいたします。

日本受精着床学会学術集会講演会

日時：平成17年8月4日(木)～5日(金)

会場：グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

会長：森 本 義 晴先生(IVFなんばクリニック)

<http://www.jsfi.jp/generalmeeting/index.html>
平成17年度より日本不妊学会とは分離して開催

ラウンドテーブル3テーマを日本不妊看護学会が実施します

まだ、暑さの厳しかった9月5日(有)に第2回の学術集
会が盛大に開催されました。会長講演「不妊とカップル
の性を考える」は、会長ご自身の臨床歴ともいえる看護
への深い理解を示唆されるものであり、続くシンポジウ
ムもすばらしいものでした。

「実践家はすごい!」という思いと、同時にもっと実
践の人と一緒に考えたい思いを強く感じました。看護大
学が急増し、教育畑にいるものが学会にアクセスしやす
いことは事実ですが、是非に臨床の看護師さんのお力を、
学会に反映させていただきたいと願っています。

(広報委員:遠藤・林・小林・丸山)

日本不妊看護学会

Japan Society Infertility Nursing
(J.S.I.N)

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内
Tel & Fax 03-5550-2266
E-mail jsin@slcn.ac.jp